



# にじのはし幼稚園 園だより

平成28年5月号  
港区立にじのはし幼稚園  
園長 酒井 正美

こいのぼりがおよいでる      おだいばのそらをおよいでる  
みんなもたくさんあそぼうね      みんながたのしいようちえん



## 「次、貸して」「いいよ」

入園、進級から1ヶ月が経とうとしています。各学年では、毎日賑やかに教育活動が繰り広げられています。

年長いるか、なみ・うみ組では、グループの友達と大きな鯉のぼりを作りました。Aちゃんは、「昨日、Bちゃんとピンクがいい、青がいいって喧嘩して泣いちゃったんだ。でも、緑にしようって話して、もう大丈夫になったの。」

年中かもめ、にじ・そら組では、オタマジャクシが泳ぐタライに、Cちゃんが砂を入れてしまいました。「オタマジャクシさんも、お砂で遊ぶから。」とCちゃん。教師は「そうか。でもオタマジャクシはね……。」と、みんなでオタマジャクシをきれいな水に引越しさせました。

そばにいる子が持っている絵本を、無言で引っ張る年少ことり組のDちゃん。「絵本、見たいの?」「うん。」「でも、Eちゃんはまだ見ているんだって。次、貸してってお話ししてみたら?」と言葉を掛けられ、教師と一緒に「次、貸して。」とEちゃんに言いました。Eちゃんは、「いいよ。」と返事をし、少しするとDちゃんに絵本を渡してくれました。「Eちゃん、優しいね。ありがとうだね。」と、Dちゃんは教師と一緒に「ありがとう。」と言い、うれしそうに絵本を見始めました。

幼稚園の遊びや生活の中では、日々このようなことが積み重ねられています。同じようなことはあっても、子どもにより、発達により、教師のかかわりは一度として同じことはありません。

人、物、事との様々な関わりを通して行う幼児期の教育において、教師の関わりは重要です。幼児の育つ力を信じ、見守る、つなげる、共感する、投げかける…、一様ではない場面において、よりよい関わりができるよう、教師は日々研鑽です。

## 園内研究主題「心も体も弾ませて遊ぶ幼児が育つー運動遊びの工夫ー」

今年度の園内研究では、「体を動かす遊びが大好き」という幼児を育てるため、小学校以降の教育とのつながりの中で、幼児期に育てるべきこと、教材や活動の工夫について学びます。

幼児期は、「楽しそう。」「やってみたい。」と思わなければ、体も動きません。「心が弾み、体も弾む」実践につながるよう取り組んでまいります。

5月は、お台場学園20周年大運動会が行われます。港陽小学校、港陽中学校とともに参加する運動会。子どもたちは、ずっと年長の児童、生徒の姿に憧れの思いをもつことでしょう。オリンピックイヤーでもある今年、たくさんの刺激を受け、それぞれの学年、子どもたちの成長の糧としていきたいと考えています。



お台場に咲いた花たち